

普及活動情勢報告（令和元年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

増収のための樹勢維持と環境制御のポイントを確認 ～ミョウガ勉強会の開催～



勉強会の様子

1月21日、JA土佐くろしおみょうが部会の勉強会を同JA本所で開催し、生産者24名が参加しました。

当課から、ハウス内の温湿度を制御することで作終盤までの樹勢を維持し、高収量につなげる方法について説明しました。特に春先など、環境変化の大きい時期には注意が必要で、ハウス内がミョウガにとって過酷な状況とならないよう、注意喚起を行いました。

参加者からは、ミョウガの生育と理想的な温度推移、温湿度の制御の方法について意見や質問がありました。

当課では、今後もミョウガの収量・品質の向上への支援を行います。

課題を見直し、次作に生かそう！ ～米ナス・ミョウガ部会経営目標面談～



面談の様子

1月23日～2月20日にかけて、JA高知県高西地区津野山ナス部会およびミョウガ部会の全戸（29戸）に対し、経営目標面談を行いました。

生産者に今作の振り返りをしてもらい、来作の収量目標や目標達成に向けた取り組みを聞き取りました。生産者からは温湿度・病害虫管理など栽培に関することから労働力確保や経費の見直しなど経営に関する相談、質問が出されました。課題解決に向けた情報提供も行った結果、全戸で戸別収量目標を設定することができました。

当課では、今後もJAと連携し、目標収量達成に向けて支援していきます。

理想の樹形に近づけよう！ ～文旦の剪定講習会～



剪定講習会の様子

2月18日、JA土佐くろしお管内の土佐ぶたん生産者12名に対して、須崎市浦ノ内のは場で剪定講習会を行いました。

講習会では講師の農業イノベーション推進課の専門技術員から剪定のポイントについて説明と実演をしていただき、それを参考に参加者で剪定作業を行いました。剪定した文旦は枝葉が茂っていて、重なり合う枝の取舍選択に悩みながらも、各自が想像する理想の樹形を実現するために、講師に確認を行いながらじっくりと取り組むことができました。

当課は、今後も関係機関と協力して果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

より良い産地を目指して生産者によるGAP ～露地・雨よけししとう決算総会の開催～



2月17日、JA土佐くろしお露地・雨よけししとう部会の決算総会が開催され、40人の生産者が出席しました。

市場視察の報告では、副部長から「消費者からの安心・安全の高まりから、今後もGAPに取り組むことが大事。」と伝えられました。当課からもGAPについて「まずは農薬保管庫の設置から」と伝え、生産者にGAPの励行について理解が得られました。

当課は、今後も総会などの部会活動で、生産者が適切にGAPに取り組めるよう支援していきます。

『カイゼン』で作業場のレイアウト改善 ～花き栽培経営体でのコンサル現地調査～



取組状況の確認の様子

2月18日、管内の花き栽培経営体の作業場で『カイゼン』コンサルタントによる今年度2回目の現地調査が行われました。当日はモデル経営体、コンサル、環境農業推進課、当課から9名が参加しました。現在、経営体では選花作業の効率化を目的とする作業場のレイアウト改善に取り組んでいます。現地調査では、当課から作業場の見取図や撮影ビデオを使い、これまでの取組概要を説明しました。コンサルからは経営体から直接聞き取ったり作業台等の位置確認など現状把握・診断がされました。調査後の意見交換では、コンサルから作業者の動き、モノの動きについて、時間軸でみて検討するよう助言を受けました。

当課は、今後もモデル経営体の『カイゼン』に向けて提案を行い、カイゼン支援をしていきます。